



自動車販売店編

子ども記者が見学



メーカー編

子ども記者が見学

販売店もエコ意識

自動車販売店にはピカピカの車が展示され、ながめているだけでワクワクしてきます。自動車リサイクルの現場を見学し

ている子ども記者たちは、愛媛県松山市の自動車販売店「愛媛日産自動車宮西店」を訪ねました。多くの人と、車を賣

るときや整備するとき、そして使用済みとなった車を引き取る際の窓口となるのが販売店です。販売店はユーザーとの接

点としてリサイクルの重要な役割を担っています。その仕組みや取り組みについて、記者たちは熱心に取材しました。

潜入クルマづくり

日本では1年間に500万台を超す新車が売られています。2万台で300万台を超す車が使用済みとなります。環境に対する

関心が高まる中、自動車メーカーも車を作って終わりではなく、使用済みになってからもリサイクルしやすいよう製造段階

から気を配っています。では、どのような取り組みをしているのでしょうか？ 外から見ただけではわからない部分でも工夫が

されているようです。子ども記者と、愛媛県にあるトヨタ自動車工場の工場や企業農場施設を訪ね、その秘密を探りました。

メーカー編
最初に見学したのは、愛媛県松山市の工場です。敷地の広さは約14万平方メートルで、約24台の車が展示されています。約6000人が働いています。プリウスやカムリなど、年産約37万台の車を作っています。

環境に優しく徹底
トヨタ自動車工場
1970年に操業を始めた工場は、環境に配慮した車作りにも力を注いでいます。敷地に「エコパーク」と呼ばれる緑豊かなエリアがあり、工場内外に植樹が行われています。また、工場にソー



自動車販売店編
「2005年に自動車リサイクル法が施行され、自

リサイクルの窓口
愛媛日産自動車宮西店
販売店として何ができるのか、宮西店の水口眞澄店長(真左)と古市竹英主任(真右)が、こども記者に丁寧に教えてくれました。工場にやさしいという電気自動車も試乗しました。

ニッケル、コバルト再利用
トヨタ自動車のクルマ作りを紹介する企業展示施設「トヨタ会館」でもリサイクルの取り組みを見学しました。無料で見学できます。ここでは、ハイブリッド専用のバッテリーのリサイクルについて説明を聞きました。使用済みのニッケル水素バッテリーからニッケルやコバルトといった貴重な資源を、再び専用バッテリーの材料として使っているそうです。電気自動車や自動運転といったクルマの未来についても紹介があり、その中でリサイクルの大切さも子ども記者たちは学びました。

細いホースの材料にした
「車を作るときは、リサイクルの材料をたくさん使っています。でも、細いホースの材料はリサイクルが難しいです。でも、トヨタでは、細いホースの材料をリサイクルして再利用しています。これは、環境に優しい取り組みです。」

- 童田颯人記者(小学4年)
「車を買う人がリサイクル料金を払っていることを初めて知りました。リサイクルの大切さも実感しました。」
原井純太郎記者(小学4年)
「自動車の機能が進化し、ほとんどリサイクルされていることも全国のお友だちに伝えたいと思いました。」

突然ですが、クイズです！
自動車販売店やメーカーが自動車リサイクルを強く推進すること、日本の自動車リサイクルシステムは成り立っています。では、車1台あたり、どれくらいリサイクルされているのでしょうか？
①ほんの少し ②半分くらい ③ほとんど全部
※こたえは右下にあります！

- 岩川幸尊記者(小学4年)
「リサイクルしやすいように、最初から工夫して車を組み立てていることにとても感謝しました。」
長谷川紗希記者(小学3年)
「使い終わった車のほとんどがリサイクルされることを、友だちにも伝えたいと思いました。」

しっかり整備長く大切に
リサイクル料金は1種類ではありません。普通車で約1万円から約2万円までと幅があります。シュレッダーダストの量やエアバッグの破損など、リサイクルのしやすさによって料金が違ってきます。それをお客さんに説明するのが販売店の大切な役割です。
宮西店には整備工場も併設されています。点検や整備を行い、長く乗れるようにすることも責務の一つです。最近では、電気自動車が普及し始め、エネルギー源となっている電池のリサイクルなども重要な仕事です。

「リサイクルだけでなく、工場で作った車をきれいに洗い流していることに感動しました。」